

「働き方改革」って 農業に関係あるの!?

今回のキャスト

社長 藤田 匠、社員 西園寺 千代、塾生 伝法院 千里

いま話題の「働き方改革」。でも農業にはあまり関係ない——藤田社長もそう思っていた。どうやら大きな見落としがあったらしい。

藤田 いやいよ田植えと播種の重なる今年一つ目の山場だな。毎年、計画を立ててはこの時期で下方修正して、結局計画どおりに作業が進まない。もう今年もその兆候が……。千代 でも、これ以上仕事の時間を増やしても、スタップみんな疲れちゃうだけです。それで必ず一悶着が起る。今年はそれは避けたいですね……。

ラジオ ……IT事業を営む株式会社〇〇では、働き方改革を進め、働きやすい中小企業として政府から表彰されました。

千代 ああ、出た出た「働き方改革」。世間では騒いでますけど、私たちには関係ない話ですよ。労働時間だって、時期によって全然違うし。

藤田 IT企業だからできることだよ。ねって思っちゃいな。農業は人の手が必要だし、天候や気温によっても仕事の内容が瞬時に変わる。労働時間の短縮っていつても、この繁忙期が終われば農閑期になるわけで、たくさん休めるんだから。

伝法院 それは違いますよ、藤田社長、千代さん！

藤田 あ、先生、こんにちは。いま働き方改革の話をしていました。伝法院 お話はだいたい聞こえていました。藤田社長は大切なことを忘れてしまっているように感じます。

藤田 えっ、なんだろう？ 思い当たることがないなあ。

伝法院 今の世の中、農業も就職先の選択肢のひとつなんです。要するに「農業は特殊だから」という理由づけは通用しません。他産業の企業と平等に比べられているんです。それができないと、ずっと人手不足のままですよ。農業経営者にもその感覚は必須だと思います。

藤田 そうですね……。経営者である私自身がその意識が低いのは致命的ですよ。すみません。

伝法院 いやいやちよつと強く言いすぎましたね。もっと良くなれる、ということだと受け取ってください

今回の執筆者
えのもと 幸子

社会保険労務士/
われらまちの
農縁団会員



千葉県出身。大学院時代の研究テーマは、嫌気性堆肥から発生するガスや土壌の成分分析。化学メーカーに就職後は、工業用洗浄剤の開発、水質や微生物の分析を行なう。2015年に税理士法人に併設する形で開業。地域の様々な業種の労務・会計のサポートをしている。週末は、里山づくりのボランティアに参加中。

左ページ記事の参考資料

- ①農業の「働き方改革」経営者向けガイド：<http://www.maff.go.jp/j/study/work/attach/pdf/index-10.pdf>
別冊資料には、「働き方改革」に役立つ支援策の紹介として、主要品目ごとの事例や課題、最新技術や機械の導入、作業の省力化等、専門家に相談する際の窓口、活用できる支援制度が一覧になっている (http://www.maff.go.jp/j/study/work/05_summary.html)
- ②「農業者・農業法人労務管理のポイント～労働者が安心して働ける職場づくりのために～」農林水産省・厚生労働省、平成28年2月
- ③「よくわかる農業技術イノベーション」(財)社会開発研究センター、日刊工業新聞社、2011年

い。それと、先ほどから労働時間のことばかり出ていましたが、働き方改革はそれだけではないんです。藤田 えっ、そうなんですか？ とかと思っていました。伝法院 確かに、その部分が目立ちますが、それだけじゃないんです。では、どのような施策があるのか、また農業で何を取り組めるのか。詳しく説明したいと思います。

▶ 働く魅力を伝えることは地域活性化の切り札になる ◀

「働き方改革」に取り組む際のヒント

新規就農者、農業を経営する法人の数は増えているものの、なかなか人材の定着は難しい。そんな時代のなかで、次代を切り拓く農業経営者にとって、どうしたら生産性が高く、かつ人にやさしい働きやすい職場環境づくりができるかを考え、新しい働き方を実現していくかが重要と言えます。農業の生産性は「人」であり、生産性の高い優秀な人材が継続して働けるような働き方、職場環境づくりが急務とされています。

2018年3月、農林水産省が主体となり開催された、第5回農業の「働き方改革」検討会では、農業経営者が「働き方改革」に取り組む際のヒントとなるよう、何からどう取り組んだらよいか、意識改革につながる3つのステージを設定し、説明しています（参考資料①）。

ステージ 1	ステージ 2	ステージ 3
経営者が自らの働き方を見つめなおす	「働きやすい」「やりがいがある」職場を作る	人材を育成しさらに発展する
★経営を可視化する ★従業員の立場に立って自らの経営を見つめなおす ★積極的に情報収集する ★経営理念や目標を作る	★できることから改善を積み上げる ★データ化、情報共有、マニュアル化する ★意見を言いやすい環境や、公平な評価制度を作る、経営理念や目標を作る	★経営発展に不可欠な人材を育成、確保する ★最先端の農機や技術の導入等により、労働時間の削減や作業負担を軽減

また、夢を持って農業分野で働く優秀な人材を確保していくためには、他産業と遜色のない労働条件を確保し、農業経営の特性に合った就労条件を作ることが重要であり、労働契約を結ぶ、安全衛生教育をする等、最低限守るべき法律についても確実に遵守するような体制を整えていく必要があります。

「働き方改革」と3つの見える化

安定して稼げる農業を実現するためには、「人」にやさしい働きやすい環境づくりに加え、生産性向上・経営の安定化も必要となります。「売上（収入）を伸ばすこと」「コスト（支出）を抑えること」が大原則ですが、多くの農業経営者は、総収入・総支出は把握しているものの、実際の売上上昇とコスト削減に必要な管理＝圃場別・作物別・売先別に分けての管理はなかなか難しいのが現状です。目的意識を持って採算性などを判断し、経営状態を知ることで、未来予測に役

立てることが大切です（参考資料③）。

①生産の見える化＝圃場の状況、匠の知、作業動線の見える化により、原価管理・効率化が可能。小規模・家族経営では抜け落ちがちな業務記録を義務化、作業内容、病害虫の記録、生産量などの明確化、IT技術の活用。それを次期の計画に活かすことで作業手順の効率化、生産のやり方も「働き方改革」につながるものに変える。

②経営の見える化＝生産計画と収量実績との関連付け、損益管理が圃場ごとに可能。

①人件費を含むコストに関する情報をきちんと管理

- ・毎日、毎週、取引の種類ごとに記録する（日計表の作成、仕訳帳の記帳、会計ソフトへの入力）
 - ・毎月、取引や入出金の記録を集計、現預金の残高を確認
 - ・領収書、請求書などの書類の整理・管理
 - ・1年の経営成績・財政状況を確定させる（決算）翌年以降の経営方針を立てる。在庫商品があれば棚卸
 - ・所得税・消費税を確定して申告・納税（確定申告）
- ※確定申告には、青色申告とメリットの少ない白色申告がある。青色申告にすると、税金が安くなる。しっかりと帳簿をつけると特別控除額が65万円になる。

②農業の匠の知の見える化・継承する仕組みの実現

③顧客の見える化＝営農計画と販売実績との関連付け、損益管理が顧客ごとに可能。見える化により、「ムリ・ムダ・ムラ」を解消、農業の競争力強化、生産者の所得向上につながる。

あなたは、どの「見える化」から始めますか。これらの実践は、品質の維持・向上および継続的な業務改善活動を推進するマネジメント手法と言えます。無駄な時間が省け、余剰の労力や時間が増えることで、休日も取れるようになり、モチベーション向上にもつながっていく、好循環を生み出します。

また、農業を通じ、「働く魅力」を伝えることは、地域活性化の切り札と言えます。人や自然に優しいワークライフスタイルを提案・実現していくことで、今後、より農業に携わる多様な人材が増えていく。多様性があることで、新しい創発が生まれ、持続可能な経営を目指してほしいと思います。